体験通し自身を育てる

農山漁村での民泊体験は、日本の原風景ともいえる職業に触れるだけでなく、民泊先の家庭で人間関係や人間としてのあり方を学ぶ。また、平和への認識を新たにする平和学習や、都市機能の持つ多様性から一人一人が社会を学びとる体験もある。いまや、中学校の教育旅行は、さまざまな体験学習が中心を占めている。それぞれの学校が立地する条件によっても、何を体験し、学ぶかは多種多様だ。中学校の修学旅行における目的や教育的意図、効果などを聞いた。

物産販売での交流通し東京と人に生き方学ぶ

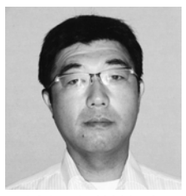
山形市立蔵王第一中学校
東京　2泊3日
14年5月　実施

山形市から借りたはっぴを着て販売

近年、多くの学校で行われている体験型修学旅行。地方から東京、大阪などへの旅行では、伝統工芸体験などに加え、マスメディアや水族館などでの職業体験といった、都市部ならではのコンテンツを生かした学習プログラムが選択されてきた。そんな中、近年増加しているのが、地元の食や観光をPRしたり、物産品を販売したりする体験活動だ。受け入れプログラムを整備している地域も増えつつある。5年前から東京方面への研修旅行を行っている山形市立蔵王第一中学校（佐藤文昭校長）でも、今年の研修旅行で初めて、クラス別研修として物産品の販売体験に挑戦した。

今年の研修旅行は5月14～16日に、1日目が江戸東京博物館、昭和館で全体研修と東京ディズニーランドで班別研修、2日目がクラス別研修と劇団四季の観劇、3日目が浅草、上野公園周辺の班別研修――というスケジュールで実施した。

2日目のクラス別研修の内容は、旅行会社から紹介された体験プログラムの一覧から5クラスがそれぞれ決めた。クラス別に江戸切子体験やカップヌードル博物館見学などを選択する中、物産のPR販売活動のプログラムを選んだのは、渋江和樹教諭が担任する3年1組だ。生徒の意見を取りまとめ、早稲田大学生の案内による大学見学と地域通貨を使った早稲田商店街での買い物、持ち込んだ地元産品を同商店街でPR販売するプログラムに決めた。生徒からは「なぜ研修旅行で物産販売をするのか」と戸惑いの声もあったが、同校では今回の研修テーマとして「東京で出会う人から生き方を学ぼう」を掲げており、物産販売でのさまざまな人との交流を通して、東京を肌で感じ取れること、これからの生き方を考えるきっかけになること、働くことを実体験できることなどから、渋江教諭も生徒の背中を押したいという。


渋江和樹教諭

しかし同校で初めての取り組みの上、店舗や協力団体などと直接交渉しなければならなかったため、準備の全てを渋江教諭が手さぐり状態で進めなければならなかった。

販売物や値付けについては、体験活動の受け入れ先である早稲田商店街の小売店「こだわり商店」（安井浩和店長）のアドバイスを受けた。その上で、同クラスの生徒の保護者で、青果の扱い方や食べ方などに精通したスペシャリスト「シニア野菜ソムリエ」として青果店などで活動している山口美香さんや、地元の菓子メーカー「でん六」などに協力を仰ぎ、5月に旬を迎える山形の高級ブランドナス「蔵王サファイヤ」などの野菜や県産ブランド米「つや姫」1合パック、でん六の菓子などを原価に近い価格で提供を受けた。

販売する野菜の講義を受けた

安井店長との顔合わせ

事前準備として生徒たちは、山口さんを講師に販売する野菜のセールスポイントについて学習。初めての経験に生徒も教員も不安の中迎えた、旅行2日目の物産販売。学生街で人通りが少なかった上に、生徒の不慣れな呼び込みや接客対応で始めはなかなか売れなかった。しかし、中盤からは安井店長による事前の告知などが奏功して頻繁に買い物客が訪れた上に、試食販売などの工夫を重ねたことや、生徒たちが徐々に販売のコツをつかみ買い物客と対話しながら販売できるようになったことで、なんとか予定していた3時間のうちに商品を完売できた。

買物客との会話も弾むようになった

旅行後に生徒それぞれが研修内容を整理し、学年全体で発表会を行ったところ、3年1組の生徒のほとんどが、物産販売に触れており、さまざまな研修プログラムの中でも特に印象深い活動だったことが分かる。渋江教諭は「右も左も分からなく、市の紹介パンフレットを取り寄せてチラシを作ったり、生徒と学校長が合作したPRソング「山形のうまいもの」を練習したりと、せっかく行くなら精一杯のPRをしようと、生徒も短時間ながら一生懸命準備に取り組んでくれた」と渋江教諭。他クラスに比べ、事前準備には倍以上の時間と手間がかかったものの、生徒たちも今までやったことのない試みに、徐々にやる気に満ちていったという。

いところで地元の物を売る貴重な体験をしただけでなく、本物の商売の喜びや苦労が生徒の心に強烈な印象として残ったことは大きい」と評価。加えて、わざわざ買い物に来てくれた人に心からの感謝の気持ちを持てたことや、内にこもりがちな山形の生徒にとって自分を表に出す格好の場となり、自信につながったこと、地元の良さを再認識できたことなど、物産販売活動によるさまざまな教育効果を挙げる。

また研修テーマに関しても、東京ではどのような人がどのように生活しているのかに直に触れ、感じることができたことは、今後生徒が生き方を考える時に何らかの手がかりになるとして、テーマに沿った体験ができたと総括した。

「当初は『研修旅行で販売活動までする必要があるのか』『もっと東京ならではのものがあるのでは』『自分のクラスだけ勝手なことをやっていいのか』と葛藤した」と振り返る渋江教諭。しかし校長や学年団の先生が1組の取り組みを温かく見守ってくれた上、販売活動での生徒の充実感あふれる姿を目の当たりにし、渋江教諭自身も達成感を感じたという。

現1、2年の担当教員も今回行った物産販売活動に関心を持っていることから、渋江教諭としては可能ならば来年以降の研修旅行に引き継いでいきたい考えだ。

修学旅行の目的達成へ責任能力や企画力育む

千葉市立幕張本郷中学校
上高地・諏訪方面　2泊3日
14年5月　実施

ガラス体験

千葉市立幕張本郷中学校（植草伸之校長）は、各学年5学級の中規模校で、「幕張メッセなど先進的な施設に近いということで洗練された生徒が多い」（浅子聡教頭）。「豊かな人間性と社会性のある人間の育成」を教育目標として、「心豊かで思いやりのある生徒」「自ら考え正しく判断できる生徒」「心身ともに健康な生徒」の育成を目指して学校教育を進めている。部活動が盛んで柔道、剣道は全国大会レベルだ。

修学旅行は「子どもたちの生きる力を育むうえで、それぞれの土地のいろいろな体験を通して、心身の成長を図る」（浅子教頭）ことが狙い。毎年、3年次の5月下旬から6月初めにかけて実施。方面や旅行の骨子は学年ごとに決めている。電車を利用する学校は団体臨時列車の手配の関係で修学旅行の実施日のかなり前に方面などを決めなければならないが、同校は バスで行くので時間をかけて内容を考えている。

オルゴール作り体験

ピザ作りにチャレンジする

息を詰めるような時計作りを体験

牛舎で仔牛とじかに触れる体験も

宮葉翼教諭

今年の行き先は長野県の上高地・諏訪方面。修学旅行を担当した宮葉翼教諭は、「こちらの普段の生活ではできないことをするのが目的。千葉は山がない。中部山岳国立公園の一部で、そのきれいな景色を友だち同士で見てほしかった」と選定理由を語る。また、体験学習を重視しており、さまざまな体験学習ができる施設がそろっていることも大きな理由だった。

5月20日から22日の2泊3日で実施し、5クラス、1特別支援クラスの203人が参加。1日目は、昼ごろに現地に到着し、午後は上高地の景勝地「大正池」で班ごとに散策。生徒たちは土産を買ったり、ソフトクリームを食べたりして思い思いの時間を過ごした。

2日目の午前は、生徒6、7人で一つの班を作り、班別での体験学習。体験メニューは、そば打ち、藍染め、味噌作り、吹きガラス、パン作り、オルゴール作り、飴作り、時計作り、五平餅作り、陶芸、松本てまり作りの12種類。「旅行会社からも体験メニューを提案してもらい、それをそのまま生徒たちに渡してどれがいいかを選ばせた。班の中でどうするかを決めるのも勉強の一つと考えた」（宮葉教諭）。

午後は主に松本、穂高方面を散策。松本城に行く班が多かったという。その後、宿舎に帰ってから学年レクリエーションとして、それぞれ班のレクリエーション係が考えた企画、「じゃんけん列車」と「○×クイズ」を広間で行った。

3日目はクラス別活動で、これも前日の班別活動と同様、事前にクラスでどこの体験施設に行きたいか希望をとり、オルゴール作りや吹きガラス体験など6メニューを実施した。その後、帰途についた。

3日間の中で2日を体験学習に充て、体験学習を中心に構成した今回の修学旅行。「体験学習を行い、また、その土地の人々と触れ合い、こちらとめよう」。美化・入浴係は美化に関しては「過ごしやすい環境をめざし、美を心掛けよう」、入浴については「みんなで協力して、安全、かつ、落ち着いて入浴しよう」というもの。

宮葉教諭は「修学旅行では、自分の係としての責任能力や企画運営していく力を身に付けさせるという狙いもあった。係の生徒たちが自発的に『静かにして』とか、入浴のときは『きれいに使って』などと自分たちで注意し合っているのを見て、成長したと思った」と話す。

事後学習では、各係が係の目標を達成できたかどうか、良かった点・悪かった点について、体育館で集会を開いて発表した。それを生徒たち全員で共有して、普段の生活の中で生かすことができないかを考えた。

また、生徒一人一人が新聞という形で今回の修学旅行について記録。この新聞は、お礼の手紙の代わりとして、体験学習でお世話になったそれぞれの施設に送っている。

成するためにそれぞれの係でも目標を決めていた。例えば、班長係では「全員が楽しく過ごせるようにしっかり班員をまとめよう」。美化・入浴係は美化に関しては「過ごしやすい環境をめざし、美を心掛けよう」、入浴については「みんなで協力して、安全、かつ、落ち着いて入浴しよう」というもの。

宮葉教諭は「修学旅行では、自分の係としての責任能力や企画運営していく力を身に付けさせるという狙いもあった。係の生徒たちが自発的に『静かにして』とか、入浴のときは『きれいに使って』などと自分たちで注意し合っているのを見て、成長したと思った」と話す。

事後学習では、各係が係の目標を達成できたかどうか、良かった点・悪かった点について、体育館で集会を開いて発表した。それを生徒たち全員で共有して、普段の生活の中で生かすことができないかを考えた。

また、生徒一人一人が新聞という形で今回の修学旅行について記録。この新聞は、お礼の手紙の代わりとして、体験学習でお世話になったそれぞれの施設に送っている。

水族館や海の生きものについて楽しく学べる
エデュケーショナルプログラムのご案内

アクアミュージアムバックヤードツアー
通常は見ることのできないアクアミュージアムの裏側をスタッフと一緒に見学し、不思議だらけの水族館のしくみを勉強します。見学後は質問タイムを設け、飼育係からの簡単なレクチャーで生徒たちの質問に答えます。

対象	小学生・中学生
定員	40名(1日4～5回)
所要時間	約30分間
実施時期	通年(土・日・祝日および繁忙期は除く)
料金	入館料のみ

うみファーム 食育体験「魚釣り」プログラム
自然の海ならではの営みを体験できるうみファームでは、海にできた生簀で、初心者でも気軽に魚釣りを楽しめ、捕まえた魚はからあげにしてご提供します。自分で捕まえた魚を食べる「いのち」をいただくという「食育」を体験いただけます。

対象	小学生以上(保護者および教職員の付添いが必要)
定員	100名
所要時間	約30分間
実施時期	通年(土・日・祝日および繁忙期は除く)
料金	500円(入館料別途)

アクアスタジアムレクチャー
水族館の生きものについてや、飼育係という職業についてなど、水族館に関するさまざまな質問にスタッフがお答えします。「海の動物たちのショー」の会場でマイクを使用して行いますので、大人数の団体さまにもご利用いただけます。

対象	小学生以上
定員	300名
所要時間	約20分間
実施時期	通年(土・日・祝日および繁忙期は除く)
料金	入館料のみ

このほかにも、楽しく学びながら体験できる場を幅広くご提供するプログラムをご用意しております。ご利用条件等、詳しくはお問合せください。［お問合せ］営業部 TEL:045-788-9632

動物取扱業に関する表示 ●氏名／株式会社横浜八景島 ●事業所の名称／横浜・八景島シーパラダイス ●事業所の所在地／横浜市金沢区八景島 ●登録に係る動物取扱業の種別／展示 ●登録番号／70－033 ●登録年月日／平成24年2月15日 ●登録の有効期限の末日／平成29年2月14日 ●動物取扱責任者／大津 大 ※天候および動物たちの体調により、イベント内容・展示が一部変更・中止になる場合がございます。※写真・イラストはイメージです。※ご来島の際は公共の交通機関のご利用が便利です。

海のエンターテインメン島
横浜・八景島シーパラダイス

年間3100校以上にご来県いただいている
信州・長野県への学習旅行は

(一社)信州・長野県観光協会は、長野県庁内に事務局を置き、国内外を問わず、長野県への学習旅行のご案内をさせていただいております。下記まで資料請求等お問合せをお待ちしております。

上記冊子「先生のための手引き書」（ワークシートつき、全32頁）を無料にて差し上げています。

お問合せ・資料請求先
(一社)信州・長野県観光協会
TEL:026-238-9670　FAX:026-232-3220
E-mail:gakushu@nagano-tabi.net
http://www.naganoken-gakushuryoko.net
〒380-8570（住所不要です）
長野県庁東庁舎2階